



No. 10, May 2019

5月になり雷雨と共に雨期が始まりました。エイヤワディー地域では早くも苗代の準備が始まっています。プロジェクト活動も2年目の雨期を迎え、昨年の成果を踏まえて、より実践的な普及人材の育成を目指しています。CS生産農家に止まらず、CSを使用するコメ生産農家、更に精米の品質まで念頭に置いた普及活動ができるよう、普及員とともに私達プロジェクトチームも視野を広げた活動を行っていきたくと思っています。

2019年度第1回普及員研修：2019年度の普及員・種子農場職員・ラボ職員向け研修は昨年同様にエーヤワディー地域（パテイン及びピヤボン⇒昨年はヒンタダ）及びシュエポー地区（シュエポー）にて開催しました。第1回目は初めてピヤボンでの実施となり、90名が参加しました。生憎雨模様の実習でしたが参加者は積極的に行動し、あっという間に苗床をつくり、播種を終えることができました。（写真：左から、専門家による講義、塩水選/苗代作り実習）



CS引渡し式とステークホルダー会議：4月にヒンタダ県で精米業者がCSをコメ生産農家へ引き渡す式が行われました。プロジェクト活動の目玉である精米業者を核としたCSバリューチェーン構築の第一歩です。シュエポー、ミヤウンミヤ及びピヤボン県でも同様に、精米業者が精米歩留まりの向上を狙ってCSを買い集めてコメ生産農家に配布しました。（写真：左から、ヒンタダ県CS引き渡し式場、農家へCSの引渡し、シュエポー県商業省主催の銘柄米シュエポーポーサン協会によるCS買取りと配布に関する会議）



第2回プロジェクト合同調整（JCC）会議開催：5月20日、NPTにて、Dr. Ye Tint Tunを議長とするJCC会議を開催。2019年度前半の活動レビュー、同年度後半の活動計画、及びPDMに関する協議の結果PDMの改訂が承認されました。また、今月は1月に据付けを完了した種子調整機3台の運用状況をモニタリングしました。（写真：左から、議長オープニングスピーチ、種子調整機のモニタリングの様子、シュエポーのゴマ畑；同地では3～5月に輸出用の黒ゴマを栽培、開花期には養蜂箱が沢山並びます。）



連日40度を超える猛暑から一転して、雨期の到来とともに気温は30度に下がり活動しやすくなりました。農村もコメ作りに活気づいています。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設していますのでご覧ください。（編集委）